

令和8年度のグランドデザインについて

令和7年度と全体目標、スローガン、内容の大きな変更はなく2年目に臨みます。但し昨年度の学校評価を反映し、学校経営計画にて下位目標や手立て等の一部見直しを行います。

全体像は、左右2つの構成です。左側は経営目標や目指す姿、実現のための重点事項と手段、実現のための組織や教職員の基礎的構えなどの具体について示しています。右側は、本校の学校経営を担う教員、寄宿舎指導員、事務職員共通の合言葉として位置付けたスローガンを示しています。この両者が合わさって、本年度の本校のグランドデザインとなっています。

まず左側から説明します。

最上部は本県の教育目標と本校の教育目標です。その下には、目指す姿を位置付けています。目指す幼児児童生徒の根幹は、校訓「和敬・明達・剛健」です。この3つに対応させ、発達段階に配慮して幼児児童と生徒を分けて表記しました。

目指す学校像は、「学びがい」「頼りがい」「生きがい」の3つの要素で構成しました。これは、学校経営における教育、療育、事務それぞれの主体の取り組みが、このいずれかに貢献し、まさに三位一体となって、中期的な視点にたった教育目標に迫るためのものです。

まず「学びがいの充実」については、個に応じた個別最適な学びの実現を目指した、指導の個別化と学習の個性化の両立で成し遂げます。主として担う組織は、教務部、学習指導部、学校運営協議会とし、個々の具体的な下位目標を4つ設定しました。子どものみならず、教職員の学びがいにもつながる取り組み等を目論みます。

「頼りがいの確保」については、的確な危機管理による安心の担保と高い専門性に基づく効果的な援助と伴走支援の充実を狙います。主として担う組織は、保健安全部、舎務部、渉外部、視覚障害教育支援センター、給食、事務部で、対応した下位目標を4つ設定しました。当たり前を安心に、安心を頼りがいにできるよう着実な取り組みを目論みます。

「生きがいの推進」については、本人や家族等が豊かでよりよく生きる

れる共生風土の寛容に繋がる取り組みの充実を目指します。主として担う組織は、生徒支援部、進路指導部、渉外部・PTA、部活動とし、同様に4つの下位目標を設定しました。全職員はいずれかの組織に所属し、個々の働きが、学校経営のどこに貢献しているのかを意識しながら執務にあたることで、協働風土が高まることを期待しています。

最下部は、すべてのベースになる3つの基礎的構えです。それは、社会人としての良識、公立学校職員としての使命感、高いコンプライアンス意識であり、この構えが欠けたところに教育目標の達成はないと考えます。学校経営計画はこの内容において設定し、内外の学校評価についても、この内容で評価をしていただきます。

次に、教職員全員の合言葉として設定したスローガンです。スローガンは、「問いの探求 ～皆が問い とともに問う 学びの場」へ、としました。中央には、和敬・明達・剛健な幼児児童生徒の実現を意識して配置しました。左右から教員、寄宿舍指導員が伴走し、学校事務やサポーターが下支えるという3者の役割から位置付けを表現しました。

教員は、教育のプロとして、授業で貢献します。幼児児童生徒個々の課題や進路に応じて求められる学びに向かう力を培う「卓越した発問名人」を目指し、新しい学力観に対応した学習指導のため、特に発問力の向上を重点に取り組みます。

寄宿舍職員は、療育のプロとして、寄宿舍での共同生活を通して自己指導能力の育成に貢献します。ここで重要なのは「問いかけ」です。指示や規則による統制のみに走らず、子どもの自問や内省の蓄積を大切にしたい、懐の深い生活指導を意識します。

事務職・サポーターは、個々の業務が多岐にわたります。それぞれが「今より少し良い」を意識した改善努力をし続け、全員が学校経営の屋台骨を支えているという自覚のもと、自身の働きを問い続ける構えをもちつつ業務にあたります。

以上、幼児児童生徒を3者が囲み、目指す姿の実現のために相乗効果をもたらす協働体制を構築します。そして、視覚障害児者のための県内唯一の学び場として、持続可能で選ばれる学校づくりを推進していきます。